日本歯科大学校友会
KOYU Times
2015 Jul. | no.10
母校はあなたのホームグラウンドであり、校友会・歯学会はあなたのアイデンティティです

校友会主催 平成27年度 校友会スポーツ文化学術大賞決まる

両歯学部のバドミントン部がW受賞！

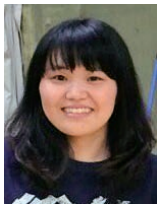
こんにちは。バドミントン部主将の石田拓と申します。この度のスポーツ学術大賞の受賞、大変光栄に思っております。

私たちバドミントン部は、8月に控えるオールデンタルに向けて練習に励んでおります。しかし、体育館が9月からの工事で使えなくなるため、この環境で迎える最後の大会になります。部員一人一人、切磋琢磨し、オールデンタル総合5連覇に挑戦していきたいと思います。

ご支援ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

生命歯学部4年 バドミントン部主将
石田　拓

私たち新潟生命歯学部バドミントン部は昨年夏に行われた全日本歯科学生総合体育大会バドミントン競技において総合優勝することができました。また、今回は同率で生命歯学部の皆さんも優勝となり、今年の４月に行われた富士見浜浦フェスタにて、このような栄えある賞を両校一緒にいただくことができました。賞をいただくことができた喜びを私たちだけでなく生命歯学部のみなさんと共に分かち合うことができ、大変嬉しく思っております。日々練習を重ね、生命歯学部と切磋琢磨して昨年に続くような成績を納められるよう頑張っていきたいと思います。



新潟生命歯学部4年 バドミントン部主将
角田　望

校友会からのご挨拶
今こそ

日本歯科大学校友会副会長
小山　理

わたしの郷里は近代医学の祖といわれる医師、蘭学者の「緒方洪庵」の出生地です。

洪庵は1836年、長崎でオランダ人医師ニーマンから西洋医学を学び、今から177年前、大阪で診療所を開設する傍ら蘭学塾「適塾」を開きました。全国から集まった塾生たちは大部屋で一人当たり畳１枚分の広さに机や夜具その他の必需品を持ち込み、そこで寝起きをしながら猛勉強を続けました。勉強をするには余りに過酷な環境でありましたが、その中から福澤諭吉、大村益次郎、大鳥圭介、橋本佐内等々、幕末から明治にかけ時代を牽引し、日本の近代化に貢献した多くの人材が巣立っていきました。

今から40年ほど前、わたしと同じ卒回の友人の弟は医科大学の学生でした。遊びの誘いに行くと毎週試験があるとのことでいつも丁重に断られていました。猛勉強を続けていたのです。現在、彼のご子息はアメリカのある研究所の研究員として在籍しており、先日、歯科治療のため一時帰国しました。治療の合間に話を聞くと、与えられた研究課題の結果を出せるのは１ヶ月程先と主任教授に話してあるのに、毎日の進捗状況をレポートにまとめ提出するよう求められるのだそうです。アメリカに戻れば再び厳しい研究生活が待っています。

歴史上の人々や身近の人の例をみても一心不乱に物事に打ち込むことができる時期があり、そこに自分の持っているエネルギーのすべてを注ぎ込むことのできる特別な権利を与えられているのは若い人だけです。

学生の皆さまにもその特権が与えられています。それを行使しないのは大きな損失となります。なぜなら自分の将来や社会に還元するために必要な力となる栄養素を吸収、蓄積する絶好のチャンスは今だからです。

富士見・浜浦フェスタ開催!!

新潟生命歯学部の同級生と寝食を共にし、合同ワークショップを通じて互いに良い刺激を受けたこの二日間は、三年後の国家試験に向けて学年全体が一致団結する、良い機会となりました。新潟の校風や特徴は新鮮であり、学ぶべきことも多々ありました。将来、歯科医師として本学校友会会員として再会できるよう、これからも両学部で切磋琢磨していきたいと思います。

生命歯学部4年　**生川太門**

両校生徒で混合グループを作り、発表や国試解答製作などをする中で、お互いを刺激しつつ交遊を深められました。これからも協力し合い情報を共有し、ある時はライバルとして競争し、お互いを高め合う。そんな連携関係を築き共に歯科医師として、社会に貢献していくことを目標としていきたいと思いました。

生命歯学部4年
藤田真澄

本学のゴールデンウィークの恒例である富士見浜浦フェスタは、今年は豊かな自然の中、絵原湖を眺める裏磐梯ホテルで行われました。その落ち着ける環境の中、両校混成のグループで共同で学習項目を学び、作業するということは互いの校風、文化の違い、また勉学に取り組むスタイルの違いを感じました。また同じ校舎で勉強するだけでは得られないであろう刺激を感じることができました。今回のことで多くの学生が、お互いを身近な良き勉学の仲間であり、また良きライバルであると感じたことと思います。

最後となりましたが今回このような貴重な機会、場を設けてくださった先生方、また引率して下さった先生方にこの場をお借りし、感謝を申し上げさせていただきます。

新潟生命歯学部4年
曽根一清

平成27年4月19日(日)
校友会主催

「女性歯科医師の集い 2015」開催

本学女性卒業生の親睦と学術向上を目的に毎年開催される校友会主催「女性歯科医師の集い2015」が5回目を迎えました。今年度は4人の講師の先生と羽村生命歯学部長から興味ある講演が行われました。来年の春は学生の皆様も参加してみませんか。

講演Ⅰ　**整理整頓！ インプラント**
林　美穂先生

講演Ⅱ　**女性歯科医師が輝く診療分野の創造を目指して**
－美容(ヒアルロン酸注入)療法の導入の可能性と問題点－
小出一久先生

講演Ⅲ　**わが国初の歯髄細胞バンクが始動 ～校友会員へのお願い～**
中原　貴教授

大学からのお願い　**女性歯科医師の活躍に関するワーキンググループ(厚労省)から**
羽村　章歯学部長

講演Ⅳ　**新しい歯科教育。大人のアンチエイジングスイーツ＆フード**
清水百合先生

5年ぶり福島での合同合宿

東日本大震災から4年の年月を経て、この度、福島県磐梯スポーツ村、丸峰観光ホテルにて、合同合宿を執り行うことができました。福島県にて合同合宿が開催されるのは5年ぶりのことでしたが、磐梯スポーツ村の皆様、丸峰観光ホテルの皆様は我々を快く歓迎して下さいました。また学生からも「運動施設が充実していた」、「民宿、ホテルのサービスが非常に良かった」との声が多く、大変嬉しく思います。

今回の合宿が東京・新潟両校の学生にとって、部活動を通しての今後の交遊を深めていくきっかけとなれば幸いです。お互いに切磋琢磨し、歯学体に向けて日本歯科大学を盛り上げていければと思います。

最後となりましたが、今回の合同合宿におきまして我々を温かく受け入れて下さった磐梯スポーツ村ならびに丸峰観光ホテルの皆様、多大なるご支援・ご声援をいただきました校友会の先生方、合宿の運営にご協力いただきました学生部の皆様におかれましては、この場をお借りして感謝申し上げます。

合同合宿実行委員長 生命歯学部4年
遠山皓基

今年度の合同合宿は福島県にて4月29日～5月2日に開催いたしました。

福島県での合同合宿の開催は、東日本大震災以降初めてとなりましたが、磐梯スポーツ村の関係者の方々や丸峯観光ホテルの方々に元気いっぱい温かく迎えていただきました。両校ともに親睦を深め、私たち実行委員も福島県の活気を感じながら充実して運営を行うことができました。来年度も実りある合宿開催のため後輩育成に努め、また今後の学生生活に、合宿の運営で得た貴重な体験を生かしていきたいと思います。

合同合宿実行委員長 新潟生命歯学部4年
今井純平

校友会・学生会共催 特別講義 開催さる

毎年校友会と学生会との共催で、3年生・5年生を対象に普段の授業では聴けないような内容で、皆様の将来に役立つ講演会を企画して開催しています。今回は第17・18・19回の特別講義が行われました。

校友会は皆様の先輩先生が組織している団体です。今後も皆様の学生時代の力になれるように学生会と協議して特別講義を開催していきますので、楽しみにしていてください。

第17回　平成27年4月24日（金）　午後4時30分　日本歯科大学 152教室

「第128回国家試験に向かって」

麻布デンタルアカデミー　石黒智彦先生（99回）

第18回　平成27年5月14日（木）　午後4時10分　日本歯科大学九段ホール

「皆さんが輝く社会のために」

～歯科医師として、国会議員として、女性、母親としての視点から～

校友会副会長　西村正美先生（78回）

第19回　平成27年5月28日（木）午後4時15分　新潟生命歯学部 第511講義室

「歯科から発信する再生医療」

～抜去歯幹細胞による疾患治療と歯の再生～

生命歯学部　発生・再生医科学教授　中原　貴先生

KOYU Quiz　Q. 写真の骨は何というでしょう？

hint

頭蓋骨の中で骨の名称がつかない唯一の骨です。頭の中央部にあります。

答えは4面をチェック！

校友君インフォメーション

日本歯科大学 中原 泉 学長主催
日本歯科大学 公開フォーラム

歯科と認知症

歯科医師の認知症対応力向上にむけて

日時：平成27年9月6日（日曜日）
9時50分～16時15分（お弁当付）
場所：日本歯科大学生命歯学部　富士見ホール
申込先：庶務部（03-3261-8452）
※在校生も参加できます。

こうゆう先輩
第３回

夢と目標を持って……

生命歯学部 歯科麻酔学講座 助教
安田麻子（94回）

もう、何年経つのかな…？　時間はあっという間に過ぎ去るもので、私は日本歯科大学を卒業して10年になりました。今回は大学を卒業してから10年間にどんな経験をしたか少しお話したいと思います。

私は大学卒業後、日本歯科大学で1年間の臨床研修医を経て大学院歯科麻酔学専攻へ進みました。大学院に進学を決めた理由は全身管理を行える歯科医師になりたいという思いと、研究をしてみたい!!という好奇心でした。大学院の４年間は研究中心の生活でしたので実験対象であるラットと奮闘し、研究データとのにらめっこの毎日でした。これは結構根気のいることで、共同利用研究施設のアイソトープ研究施設の先生のご指導と励ましがなければ、最後まで成し遂げることができなかったと思います。おかげさまで無事に４年間の研究生活を終え、宝ものを得ました。それは物事の理由と根拠を知りたい!!　という探究心です。実は私は大学院の研究生活をするまで物事を深く考えていませんでした……というわけで、たまに自分でもめんどうくさいやつだなと思ってしまうのですが、友人から「このクリームお肌に良いのですって」と聞くと、どうして、どのように？　成分は？　誰か証明しているの？　と追究してしまいます……。

もう一つ、私の大学院生中の特別な経験でカンボジアでの歯科ボランティアに参加しました。これには3年続けて参加したので国の発展をリアルに体感したのと、十分でない環境と物資の中でより良い歯科治療をどのように行うかについて考える、という二つの貴重な経験をしました。まだまだ経験が浅く十分でない治療であったにも関わらず両手を合わせてキラキラとした笑顔でお礼を言うカンボジア人の姿は今でも私の励みになっています。

さて大学院を卒業し、現在は歯科麻酔学講座で教員として仕事をしています。大学では、診療や医科麻酔科研修、学外での教育関連のセミナー参加など多くの経験をしました。

あらためて大学で仕事をしていてよかったことを考えてみると、たくさんの人と知り合うことができること、専門的知識を持った臨床歯科医と仕事ができること、最先端の知見を知ることができ研究を行える立場にいること、そして教育に携わることができることです。そして何よりも常に自分自身が関わっているすべての人のおかげで学び成長しているということです。

さて私の10年間のほんの一部だけしかお話できませんでしたが、いかがですか？　ちなみに私はこれからの将来まだまだやりたいことがたくさんあります。人生一度限りです…。毎日の努力と経験は人間性を豊かにし、宝となることは間違いありません。皆さんも夢と目標をもって人生を大切に思いっきり楽しんでくださいね!!

校友君インフォメーション

福島県校友会「在校生との交流会」

開催日時：平成27年8月9日（日）
会場：ホテルプリシード郡山
（郡山駅前）
担当者：専務 阪本義之（81）
TEL：024-956-4511
FAX：024-942-8585

群馬県人会開催のお知らせ

1.日本歯科大学生命歯学部
日時：平成27年6月4日（木）
午後6時30分
場所：飯田橋ラムラ20階「北海道」
幹事：国吉寛仁（4年生）

2.日本歯科大学新潟生命歯学部
日時：平成27年6月26日（金）
午後6時30分
場所：NEXT21「五十嵐邸　結」
幹事：平形友里香（4年生）
黒川裕臣教授

群馬県日本歯科大学 校友会会長
永山礼久
TEL：027-363-3271
FAX：027-364-8241

KOYU Quizの答え：下鼻甲介、頭蓋骨にあり、鼻腔を構成する薄いハさな骨です。空気の通り道に左右あり、呼吸時に鼻から空気が簡単に入らないように複雑な構造をして骨の粘膜にホコリなどを吸着させます。

診療室での物語

カルテ No.10

歯が抜けない

新潟病院口腔外科
小根山隆浩
（85回）

口腔外科で最も頻繁に行われる手術は抜歯である。学生実習では模型で抜歯を行うことがあると思うが、臨床では模型のように簡単に抜歯できることはほぼない。それは、歯は抜かれるためにあるものではないこと、相手が痛みを感じる人間であるということである。

なぜ、患者の歯を抜くことができるのだろうか。抜歯が上手いからだろうか。歯科処置は常に痛みを伴うものである。つまり、痛みをコントロールすればどんな処置でもできるのである。とは言ってもこれが簡単ではない。かなりの経験と技術を要する。

もう一つ重要なことは、抜歯の計画を練ることである。肉眼で歯根の状態や顎骨内を確認することはできない。エックス線の読影が重要となる。歯の状態が確認できて初めて抜歯方法を考えることができる。究極的には平面のエックス線画像から立体的な位置関係を予測できる必要がある。これもかなりの経験と技術を要する。

歯の状態が確認でき、抜歯方法を考えた後に抜歯となる。事前の計画がしっかりできていれば抜歯の半分は終わったも同然である。ただし、計画と言ってもうまくいかない場合にどうするかなど様々な予測ができている必要がある。学生では教わらない方法も使えなければならない。これもかなりの経験と技術を要する。

ある日、30代男性の右下８（“親知らず”のこと）埋伏歯抜歯を行った。以前より時々違和感があるという。エックス線を撮影すると右下８は垂直方向に咬合面まで顎骨内に埋まっている。歯根は２根が癒合した形態で、根尖と下顎管との接触の可能性が高い。骨性埋伏のため患者には術後かなり腫れること、下歯槽神経の知覚麻痺が出現する可能性があることを説明し抜歯を開始した。

まず、局所麻酔カートリッジ２本で右側下顎孔伝達麻酔と右下８部歯肉に浸潤麻酔を行う。骨膜刀で右下７頬側と遠心に切開を行い、エレバトリウムで粘膜骨膜弁を剥離するが、右下８は見えない。タービンで骨削除し右下８歯冠の一部を確認する。さらに歯冠全体が露出するように骨削除する。次に歯を頬舌的に分割し脱臼を試みるが、歯の一部のみが破折してしまう。タービンでの骨削除や歯の分割を繰り返すが脱臼しない。骨性癒着である。こういう場合は地道な作業を繰り返すしかない。しかし、骨削除による出血が多くなり吸引しても歯が見えない。10分程度ガーゼで圧迫止血し、再開するが出血で見えない。根尖と下顎管も接触しているようで、エレベーターで力を加えると痛みが伴う。抜歯できるだろうか……。すでに１時間以上経過している。このまま続けるか、一旦中止するか決めなければならない。その後もがんばってみたが状況は変わらない。患者へ中止を宣言し、その日の抜歯は終了した。

どんなに経験や技術があっても抜歯できない歯がある。抜歯することも重要だが、それ以上に患者の安全が重要である。抜歯を中止することは続ける以上に勇気がいる。患者の状態を考えて中止できるようになった時が歯科医師として一人前なのかもしれない。再抜歯する予定である。

校友の　歴史の重さ　手渡して　頼むぞ後輩　母校の未来　伝統を　守ってゆきます　我々も　富士見・浜浦　熱き心で

KOYU Times　2015 Jul. | no.10
2015年7月1日発行　発行人：近藤勝洪　編集人：倉治　隆
発行：日本歯科大学校友会　日本歯科大学生命歯学部100周年記念館2F　TEL.03-3261-8971　FAX.03-3264-8745
URL　http://www.koyu-ndu.gr.jp/